



“スクラップインセンティブ”が自動車アフターマーケットに深刻な打撃!?

## 中小・零細の自動車部品・用品卸や整備工場で不況型倒産拡大

### 今回のエコカー補助金の影響は…

景気は上向きだしたと言われていますが、国内市場を相手にする小売・サービス業で不況型倒産が増加傾向にあります。裾野の広い自動車産業も同様、修理用部品・用品の卸売業や整備業で昨年度の倒産件数が増加しました。この原因、前回のエコカー補助金で実施された“スクラップインセンティブ”が影響している、との指摘もあるのです。

民間調査機関の帝国データバンク（TDB）が2011年度の倒産状況をまとめました。大型倒産が減少、全体の負債総額も減少していますが、国内需要に依存する小売、サービス業で倒産件数は前年度より増加しました。販売不振や業界不振を背景にした「不況型倒産」は過去10年間で最高の9609件、全倒産件数の84.0%に達したそうです。

裾野が広いと言われる自動車産業も同様です。自動車メーカー、部品メーカーは海外市場に助けられ、業績を伸ばした企業がありますが、自動車整備業（車体整備を含む）や自動車部品・用品卸売業の倒産件数は前年度より増加しました。

TDBのまとめでは、自動車部品・用品卸売業の倒産件数は前期比42.9%増の60件、自動車整備業も同様に倒産件数は同41.8%増の78件に増えました。小規模業者の倒産が増えたことで負債総額は減少、それぞれの101億7600万円（同43.3%減）、33億7500万円（同25.7%減）となっています。

中小・零細規模の部品・用品卸売業や整備業が苦しんでいる様子がうかがえます。この原因、2009年6月にスタートした「エコカー補助金」にあると見られています。前回のエコカー補助金は、ディーゼルエンジン車で新規登録から

11年を超えた車両、ガソリンエンジン車では同13年を超えた車両について、永久抹消を前提に補助金額をアップしました。「スクラップインセンティブ」と呼ぶもので、登録乗用車の場合、廃車しなければ補助額は10万円、廃車をすると25万円（軽自動車はそれぞれ半額）です。この施策で新規登録から13年を超えた乗用車、11年を超えた大型トラック・バスの廃車が進みました。

2009年4月に始まった前回のエコカー補助金は、2010年9月末まで半年間期間延長されましたが、利用者急増で9月末を待たずに打ち切りになりました。自動車リサイクル法に基づき廃車動向の管理などしている「自動車リサイクル促進センター」のデータでは、エコカー補助金の本格的な利用が始まった2009年7月からエコカー補助金が打ち切られた2010年9月までの1年間、スクラップ処理するために引き取られた車両は412万台に達します。前後の年間発生量は350～370万台ですから50万台ほど通常より多く処理された模様です。

新車販売で長期保有車の代替が進み、その結果、本来発生するはずの修理需要が減少し、部品・用品卸売業や整備業の市場を圧縮したと見られるのです。当時の代表的なエコカーは、トヨタのハ

イブリッド車「プリウス」で、3ナンバーの普通乗用車からプリウスに乗り換えるなどのユーザーが増加、プリウスの新車を見かける機会が増えました。買い換えた新車の整備需要はこれから発生します。ハイブリッドという専門知識を必要とする機構もあるし、新車のうちはディーラーでメンテナンスを頼むとの傾向も強く、整備・修理需要は一般の整備業者に回りにくい構造に変化したのです。

### 今後の市場動向に注目

さて、今年4月から新たなエコカー補助金が始まりました。今回、スクラップインセンティブは採用されませんでした。それでも自動車アフターマーケットへの影響は大きそうです。この間、ハイブリッド車の車種バリエーションは増加、ガソリン価格の高止まりもあり燃費性能の良いことで人気は高まっています。実際、昨年度273万台販売された登録乗用車の4台に1台はハイブリッド車でした。

エコカー補助金の実施でさらにハイブリッド車人気は高まりそうです。電池やモーター、付け加わった機構をどうメンテナンスするか、メーカー系列外の整備業者の課題は多く、その対応を真剣に考える必要がでてきています。

# JARA名誉会員に新たに2氏 フィジー大使館のマタイトガ大使と 台湾のUNIAUTO社のヒュイ社長



マタイトガ大使に名誉会員証を授与



UNIAUTO社のヒュイ社長に名誉会員証（IAAEの同社ブース前で）

全日本自動車リサイクル連合（JARA）に2人の名誉会員が加わりました。1人は、フィジー共和国在日大使館のイシケリ・マタイトガ大使、もう1人は、台湾の自動車部品メーカー、UNIAUTO社のデビッド・ヒュイ代表取締役です。JARAの郷古実常務理事が両氏を訪ね、それぞれ3月15日に名誉会員証を授与いたしました。

フィジー共和国在日大使館のマタイトガ大使への名誉会員証贈呈は、JARAがフィジーで取り組んできた「フィジー諸島における廃車処理状況」への惜しみない協力に対して感謝の意を表したものです。3月15日に横浜市西区の横浜ロイヤルパークホテルで開かれたフィジー共和国神奈川・横浜領事館開設記念祝賀会に合わせてマタイトガ大使にJARA名誉会員証を手渡しました。

JARAがフィジー共和国で取り組んだ廃車処理状況の調査は、世界の自動車リサイクル業界から高い評価を得、環

境分野の世界最高権威である「エナジー・グローブ（Energy Globe）賞」を受賞することができました。

フィジーで走る自動車の多くが日本からの輸入中古車とあって、マタイトガ大使は、廃車処理プロセスや自動車リサイクル事業に感心を寄せています。JARA会員企業に対してフィジーへの自動車リサイクル事業の投資を願うとともに、近隣の南太平洋諸島を含めた自動車の環境汚染やリサイクル問題解決への貢献を期待していました。

一方、デビッド・ヒュイ氏は、台湾の自動車部品メーカー、UNIAUTO社（<http://www.uniauto-wepro.com>）のオーナー社長です。同社は高品質な自動車用ホイールナットなどを世界中で販売しています。東日本大震災の折には、JARAを通じ義援金をいただくなど、日本の自動車リサイクル業界との交流も深めています。

自動車リサイクル業界は昨今、自社のリサイクル工場に隣接して中古部品販

売ショップを営むケースが増加傾向にあります。その中で中古タイヤ・ホイールは売れ筋商品です。ヒュイ社長がJARAへ参加したことで、UNIAUTO社が特許を持つホイールナットやアルミ鍛造ナットなどの販売機会が生まれる可能性があり、日本の中古タイヤショップにおいて商材拡大に期待がもてます。

ヒュイ社長に対しては、東京ビッグサイトで開催されていた「国際オートアフターマーケットEXPO（IAAE）2012」の会場で、名誉会員証を授与いたしました。



祝賀会でスピーチする  
 在日フィジー大使館のマタイトガ大使

環境活動  
 支える

株式会社高橋商会  
 株式会社大晃商事  
 株式会社三森コーポレーション  
 株式会社鴨下商店  
 株式会社豊和自動車  
 株式会社三重パーツ

ホームページ、広告、印刷から  
 各種イベントまで対応します。

株式会社 イー・モーション  
 本社

〒540-0037  
 大阪市中央区内平野町1-1-5  
 Tel:06-4790-8922 Fax:06-4790-8923

東京オフィス 〒105-0003  
 港区西新橋1-12-6 富士annexビル7F  
 Tel:03-5510-1967 Fax:03-5510-6807

e-motion